

イタリアの鉄道員

松浦 俊博

二〇〇七年十二月に北イタリアのトレントに居た娘のところに家族が集合した時の話である。妻は先に出発し、息子はカナダから直行したので、私は一人で二七日夜一〇時過ぎにベローナ空港に着いた。前年まではミラノで一泊して、翌朝の列車でトレントに移動だったが、一泊を省略するという妻の方針によりこなくなった。

夜十一時ころベローナ駅に到着すると既に切符売り場には人がいなく、二八日一時一分ベローナ発ミュンヘン行きの夜行列車の切符を自動販売機で買う。トレントはベローナから一駅目で、五〇分くらいかかる。駅構内にあるマクドナルドやトイレも閉まっていた。列車の出発ホーム指示によりホームに行く列車が止まっていた。照明もついているしドアも開いており、扉には「Verona-Munich」と貼紙があった。発車の二時間近く前で、ちょっと変だと感じたが、車内に人影があったので乗り込んでトイレを済ませ席に座った。

一息つく間もなく、突然ドアが閉まり列車が動き出したので驚いた。どうみてもトレントに向かっていている気配はない。三分くらいゆっくりと動いた後、やっと止まった。明らかに車庫だ。しばらくして運転手らしい人が見えたので、ドアを叩くと気づいてくれた。なんとなく言葉が通じたので助かった。駅の明かりが遠くに見える。仲間の車で駅に連れて行ってくれるよう連絡をとってくれたがうまくいかない。

そこで、乗ってきた列車で送ってくれることになった。きたなく狭い運転席に乗り込んで、来た線路を戻る。途中のポイントはすでに切り替わっているのので、運転手が手前で降りて手動で切り替えたりバックしたりと大変な運転の末、駅のホームから二つ目の線路に着けてくれた。お礼を少し渡そうとしたが断られた。イタリアの鉄道員は親切な職人だと好感を持った。

それから一時間あまり待って予定の夜行列車に乗り込んだ。トレント駅に着いて、タクシーで娘のところに着いたのが二時三〇分ころ。三人とも起きて待っていてくれた。

北イタリア ベローナからトレントへ
周辺地図

